

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年10月26日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙 玉本英子（アジアプレス取材チーム、シリアから中継）		
検証テーマ：オープニング、菅官房長官が埼玉県を視察、神戸市で空襲犠牲者追悼式典 東京ー北京フォーラム、【特集】クルドは見捨てられたのか		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県での大雨で相次ぐ氾濫と土砂崩れ ・オープニング ・千葉県野原市の様子の中継 ・台風19号被災地でも追い打ちの雨 ・菅官房長官が埼玉県を視察 ・神戸市で空襲犠牲者追悼式典 ・東京ー北京フォーラム ・浸水の住宅地以前水が引かず ・保護観察中に性的暴行未遂の疑い ・JR 東京駅で乗客のかばんから煙 ・【特集】大水害で奪われた日常 ・【特集】クルドは見捨てられたのか ・スポーツ報道 		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・オープニング：結論→特に問題なし 番組のオープニングで金平キャスターが「台風大雨被害や天皇即位セレモニーの影で菅原経産大臣の辞任劇がありました。カニ、メロン、イクラ、それに香典でやめたこの大臣、少し前には関西電力の経営幹部に金品受け取りは言語道断だと叱っていましたが、任命責任は私にあるという言葉が虚しく響きます。」と述べていた。このシーンに当てられた時間は21秒だった。なお、今日の報道特集で菅原経産相について言及されていたのはこのシーンだけだった。 ・菅官房長官が埼玉県を視察：結論→特に問題なし ナレーションによって「菅官房長官は台風19号で5000戸を超える住宅が浸水するなどの被害が出た埼玉県を訪れました、決壊した坂戸市の堤防の復旧状況を視察したほか、浸水により一時200人以上が取り残された特別養護老人ホームで地元市長らから要望を受けました。」と伝えられるとともに、菅官房長官の「被災者の皆さんの生活再建を支援するために幅広く切れ目のない対策を行っていききたい。」という会見でのコメントが取り上げられていた。 このトピックに当てられた時間は32秒で放送法上は特に問題は見られなかった。 ・神戸市で空襲犠牲者追悼式典：結論→特に問題なし 		

ナレーションによって「兵庫県姫路市で太平洋戦争中、空襲で犠牲になった全国の民間人およそ 51 万人を追悼する式典が行われました。姫路市には空襲による犠牲者を追悼する国内唯一の慰霊塔があり、塔が完成した日である 10 月 26 日に毎年式典が行われていて今年で 64 回目を迎えました、今日は慰霊塔を前に遺族らおよそ 500 人が参列し、平和の誓いを新たにしていました。」とのことが伝えられた。

このトピックに当てられた時間は 37 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・東京－北京フォーラム：結論→特に問題なし

東京－北京フォーラムについて以下に朱記したように取り上げられていた。

記者「米ペンス副大統領の演説をどう思うか？」

王毅(中国外相)「まったくのデタラメだ。」

ナレ「中国の外相王毅は北京で行われている東京-北京フォーラムで香港情勢や新疆ウイグル自治区の状況を避難したアメリカのペンス副大統領の演説をまったくのデタラメと否定しました。また日中関係については来年春に予定されている習近平国家主席の訪日が新たな一里塚になると強調、日中共同で世界の発展に貢献する必要があると呼びかけました。」

このトピックに当てられた時間は 37 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】クルドは見捨てられたのか：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「続いての特集です。今月の 9 日から始まったトルコによるシリア北部への軍事作戦です。発端はこの人、アメリカのトランプ大統領にあるといわれています。トルコ・シリア国境で何が起きているのか。軍事作戦当日もシリアで取材していました、アジアプレスのタマモトエイコさんの緊急報告です。」というコメントを受けて、以下に朱記した VTR が取り上げられた。

"ナレ「今月 9 日、突如始まったトルコによるシリア北部への軍事作戦。」

タマモト記者「砲撃です。うあー。」

ナレ「砲弾が着弾したまさにその時、シリア北部に日本人ジャーナリストがいた。アジアプレスの取材チームだ」

玉本記者「あちらにですね、白い煙が上がっているのが見えます。砲弾が着弾したようです。」

"玉本記者「Now OK? Now OK?」

ナレ「玉本英子は長年シリアやイラクなど、紛争地の取材を続けている。これは 5 年前にシリアを取材した際の映像だ。特に、過激派組織イスラム国=IS については、大量虐殺の実態など、精力的に取材を続けてきた。」

ナレ「その IS は、シリアにおける拠点を失い、勢力圏は大きく塗り替わりつつある。」

ナレ「今、現地で何が起きているのか。」

女性（字幕）「子供に何の罪があるというの。」

ナレ「トルコによる軍事作戦の 5 日前、アジアプレスの玉本英子は、シリア北部の街にいた。壁の向こうは、トルコだ。」

玉本記者「シリアとトルコの国境地帯、テル・アビアドに来ています。トルコ軍とシリア北部に展開するアメリカ軍が、合同で国境パトロールを行っております。」

ナレ「それぞれの国旗を掲げた車両が、数キロメートルの範囲を巡回する。」

ナレ「国境地帯では、シリアにいるクルド人勢力と、トルコの対立が続いている。両者の間にアメリカ軍が入ることで、かろうじて大規模な衝突は避けられてきた。だが、この 3 日後、激震が走る。」

ナレ「きっかけとなったのはアメリカ・トランプ大統領のツイッターだ。」

トランプ大統領ツイッター（吹替）「ばかげた終わりなき戦争から手を引く時だ。」

ナレ「シリア北部からのアメリカ軍の撤収を表明したのだ。アメリカ軍を展開するコストを削減することで、来年の大統領選へのアピールになると判断したとみられる。」

ナレ「ツイートの翌日、シリアの国境地帯にあるアメリカ軍の施設に行く」と、

玉本記者「米軍の監視所があったところです。昨日、米軍が撤収したということです。一応もぬけのカラの状態です。ここは台所だったようで、食べ物もですね、そのまま残されています。これはですね、米軍のビーフシチュー。食料が残されています。」

ナレ「電子レンジや発電機も残され、撤収を急いだ様子がうかがえる。」

ナレ「同じ日、過激派組織、イスラム国、ISの最大拠点の一つだった、ラッカに入った。ここではクルド人が主導するシリア民主軍が、検問を行っていた。」

"トラック運転手（吹替）「信じてくれ。」

検問所の兵士（吹替）「そっちにトラックを止めて。」

トラック運転手（吹替）「本当にIDを忘れたんだ。ラッカで荷下ろししたいんだ。」"

映像

ナレ「シリア民主軍は、IS掃討作戦の最前線で戦ってきた。今も、ISの残存部隊や、協力者が潜伏しているため、厳重にパトロールしている。隊員は、若者が多い。彼は1年近く、ISに捕まっていたという。」

男性（吹替）「この地下で、捕まっていた。大変だったよ。スパイだとみなされたんだ。空爆で多くの建物が壊されたけど、以前より安全だよ。」

ナレ「アメリカはISを壊滅させるため、彼らに武器を提供してきた。特にトランプ政権になってから、その量は増えた。」

玉本記者「えーこの装甲車はアメリカ軍の支援によるものです。」

ナレ「ISは支配地域を失うまでに勢力が衰えたものの、今も各地で自爆テロを繰り返している。アメリカ軍は、ISとの戦いで連携していたシリア民主軍を残して、撤収してしまったのだ。」

ナレ「アメリカ軍がいなくなり、トルコによる攻撃の懸念が広がる中、国境付近では、抗議集会が行われた」

集会参加者女性（字幕）「トルコの占領に反対 反対 反対」

男性（吹替）「国際社会には、トルコの侵攻を阻止し、シリア北東部の住民を支援してもらいたい。」

男性（吹替）「安全に暮らしていたのに、トランプに裏切られてしまった。」

ナレ「この翌日、トルコの軍事作戦が始まった。シリア北部の国境の街、カミシュリでは、」

玉本記者「砲撃です。うわー。今、シリアカミシュリ、夜の9時5分です。先ほど再び大きな爆発音が聞こえました。あちらにですね、白い煙が上がっているのが見えます。」

ナレ「砲撃は、夜中まで断続的に続いた。」

ナレ「なぜトルコは、シリア民主軍を攻撃するのか。そこにはクルド人の歴史が深くかかわっている。」

ナレ「クルド人は、国家を持たない世界最大の民族とよばれる。居住地域は、トルコ、シリア、イランなどにまたがり、およそ3000万人が暮らしているとみられる。」

ナレ「トルコでは、1980年代半ばから、クルド人の分離・独立を求めて、クルド労働者党が、武装闘争を繰り広げてきた。このクルド労働者党が母体となって、シリア民主軍ができた。トルコのエルドアン大統領からは、どちらもテロ組織と呼ばれている。トルコが平和の泉作戦と呼ぶ今回の軍事作戦の狙いは、2つある。」

ナレ「一つは、トルコと国境を挟んで勢力を持つシリア民主軍を遠ざけること。もう一つは、シリア民主軍の勢力範囲に、東西480キロにわたって、安全地帯を設けることだ。トルコにいる数百万人のシリア難民をここに

帰還させるとしているが、」

玉本記者「砲撃です。カミシュリ市内に砲弾が落ちました。」

ナレ「トルコの軍事作戦開始から、1夜明け・・・砲撃を受けた国境の街、カミシュリ。繁華街は、多くの店が閉まっていた。人影もまばらだ。」

"玉本記者「えー昨日砲弾が落ちた場所の一つです。」

玉本記者「ハウンペ？（砲弾はどこに？）ハウン。ハウン」

玉本記者「今もですね、非常に焦げ臭いにおいがしていますし、家の中もですね、かなり破壊された状況です。いきなり、砲弾がとびこんできたということです。」 "

ナレ「砲撃を受けたのは、キリスト教徒が多く住む住宅街にある。5人家族の家だ。」

ナレ「家の前にある露店も爆風で破壊された。周囲には軍事施設は無く、無差別な砲撃だったとみられる。目の前の通りには、・・・」

玉本記者「血の跡が、残っています。」

ナレ「この砲撃で、偶然通りかかった近所の住民1人が、亡くなった。」

ナレ「砲撃された家に住む夫婦は、重傷を負い、病院に運ばれた。妻は半身不随になりそうだという。」

女性（吹替）「息子の子どもたちは、とても怖がっています。惨状を見て、眠れなかったみたいです。わたしが身代わりになればよかったのに・・・」

デモ隊（字幕）「命がけの抵抗を 命がけの抵抗を」

ナレ「カミシュリに住むクルド人たちは、トルコへの抗議デモを行うなど、激しく反発。」

女性（吹替）「私たちの意志を踏みにじることはできない。戦死した同胞たちの名に懸けて、最後まで戦い抜きます。」

"ナレ「トルコのエルドアン大統領は。」

エルドアン大統領（字幕）「シリアのクルド人勢力に対する構成は弱めない。誰が何と言おうと、この作戦はやめない。」 "

ナレ「一方、トランプ大統領は、トルコの軍事作戦を批判しつつも、アメリカ軍を関与させない考えを、示した。」

ナレ「攻撃は激しさを増し、クルド人支配地域の街は、トルコ軍に制圧されていった。」

ナレ「軍事作戦が始まってから、4日。国境から30キロのテル・タムルの病院には、次々と負傷者が運び込まれていった。この日までに、115人が搬送され、30人が息を引き取ったという。運ばれてきた中には、赤ん坊も。病室には、攻撃に巻き込まれた民間人がいた。」

"記者「Do you remember?（字幕）（攻撃されたことを）覚えていますか？」

女性「(うなづく)」

通訳「Yes」

記者「How was that?（字幕）何があったんですか？」

女性（吹替）「空爆で家が崩れて下敷きに」 "

"ナレ「この女性は空爆を思い出したのか・・・。」

医者（字幕）「息を吸って、息を吸って、落ち着いてください」 "

ナレ「一緒にいた夫は、その空爆で亡くなった。」

女性の兄（吹替）「なぜ、私たちなのでしょう。私たちが何か罪を犯したのでしょうか？こんな目に合うなんて、私たちは何をしたのでしょうか？家にいたのがいけないのでしょうか？ここを出てトルコに行けというのでしょうか？それとも、トルコ兵を襲えというのでしょうか？」

ナレ「戦場となった町、シリアのラス・アル・アインからは、住民が親戚などを頼りに、続々と逃げ出していた。多くの方が、もう家には戻れないだろうと、嘆く。」

"記者（字幕）「今の状況をどう思われますか？」

男性（吹替）「考えているのは、どうやって生きていこうかということです。」

"記者（字幕）「今後の心配ですか？」

女性（吹替）「ないないない。私たちに未来なんてないわ。」

ナレ「自らカメラの前に車を止め、訴える人も。」

男性（吹替）「トランプは商売をするかのように、クルド人を売り飛ばしたんだ。」

ナレ「クルド人の多くが、トランプ大統領への激しい怒りを口にする。」

女性（吹替）「トランプはひどい。トランプの決定のせいでこんなことになった。私たちを裏切って売ったのよ。」

記者「Were there military point near you?（字幕）近くに軍事拠点はあった？」

男性（吹替）「いやいやいや市民だけだ。突然攻撃された。クルド人はISを排除したのに、悪いことをしたというのか。」

女子（字幕）「どうして子どもを殺すの？何の罪もないのに。なぜ子供を殺そうとするの？みんな怖がって泣いてる。みんな怖がって泣いてるの。」

ナレ「国境から60キロの街、ハサカにある小学校。ここには頼るツテすら無い人々、およそ250人が、一時的に避難していた。」

女性（吹替）「アメリカ、中国、日本、アラブ諸国、全ての国にお願いしたい。この国の戦争を止めて。できないならヨーロッパに逃げられるよう、国境を開いて。再出発したいのよ。」

ナレ「ISとの戦いに続き、トルコと戦果を交えるクルド人たち。国を持たないがゆえに国際社会に働き替える手段は、限られている。」

ナレ「トルコの軍事作戦が始まって、1週間。シリア国境では、地上戦が続いていた。国際社会が強く懸念している事態がある。トランプ大統領は、撤退発表と同じ日、こんなツイートもしていた。」

トランプ大統領のツイート（吹替）「トルコはヨーロッパなどの国々とともに、拘束したIS戦闘員と家族をを監視しなければいけない。」

ナレ「拘束したIS戦闘員の多くは、これまで、シリア民主軍側が、監視してきた。だが、トルコの攻撃後、一部の戦闘員らが脱走し、姿を消したのだ。懸念される事態。それはISが再び息を吹き返し、世界各地でテロを起こすことだ。」

ナレ「ISの被害の全容は、まだ明らかになっていない。トルコの軍事作戦の直前まで、玉本は、ISがシリアに残した傷跡を、取材していた。」

ナレ「右手にだけ手袋をするこの男性は、ISの被害者だ。」

サーレハ・ムハンマド・アル・マスリさん（26）（吹替）「ISは敵対する私たちのグループを、降伏させようとして、私をスパイに仕立てようとしてました。」

ナレ「男性がスパイになることを断ると、突然身に覚えのないバイク窃盗の罪で裁かれた。」

"記者（字幕）「Q、手を見せてくれませんか？」

"

ナレ「その結果、右手を切断された。3年前のことだ。」

サーレハさん（吹替）「右手の下に薄い金属が敷かれ、大きな包丁で切断されました。」

ナレ「ISの主要拠点だったラッカの郊外。掘り起こされているのは、ISに虐殺された人たちの遺骨だ。紐のよ

うなものも見つかった。」

玉本記者「あーこれは、手首を縛られて処刑された、その手首に繋がれていたロープのようなものです。」

ナレ「遺骨は男性で、後ろ手で縛られたまま、殺害されたとみられる。」

ナレ「IS は、同じイスラム教徒のシーア派や、クルド人の少数派、ヤズディたちを虐殺してきた。ラッカで発見された遺体の総数は、去年1月から、5350にも上る。」

ナレ「一方、ラッカから40キロの、避難民キャンプ。その一角に、子どもたちばかりがあるテントがある。みんな、孤児だ。親は IS の戦闘員だった。」

ナレ「この兄弟の家族は、ロシアから来たとみられるが、詳しいことは分からない。母親は、目の前で空爆によって殺されたという。」

"少年（吹替）「家を、空爆され、爆風で飛んだ破片で亡くなりました。」

少年（吹替）「頭の、ここが無くなっていました。」 "

ナレ「彼の頭にも、そのあとの傷が残る。」

玉本記者「空爆で、手にけがをしたということです。」

ナレ「エジプトの出身の13歳の少年は、IS 戦闘員としての訓練を、受けていたという。戦闘に参加する前に、保護されたが・・・」

エジプト出身の少年（13）（吹替）「遺体をたくさん見ました。でも平気です。亡くなっている人を見ると、普段は怖いけど、戦争で遺体見ても怖くありません。」

"ナレ「彼は、父親の遺体も目の当たりにしている。」

少年（吹替）「お父さんは撃たれて、たくさん血を流していました。そばに行ったときは、もうなくなっていました。」 "

ナレ「このテントには、7か国、24人の子供が保護されている。引き取る意思を示した国は、一つもない。」

VTR をうけてスタジオと中継の間で以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

膳場「さて、現地ではアジアプレスの玉本さんが取材を続けています。玉本さん現在の状況はどうなっていますか？」

玉本記者「はい、私は今、シリア国境を接するイラク北部、クルド自治区アルビルにいます。ここには今回の攻撃による直接の影響は及んでいませんが、毎日シリアから新たな難民が流入しています。ここ、アルビルから、車で2時間の場所にあるバルダガシュの難民キャンプですが、およそ1万人が逃れてきています。難民は今後も増えるとみられています。」

玉本記者「で、またシリア国内には、10万人以上の住民が、国境地帯から避難してきたといわれています。その多くが親戚の家などに身を寄せ、地元の人たちの助けに頼っている状況です。」

日下部「えー玉本さん。今週火曜日にはですね、ロシアとトルコの首脳会談が行われてですね、クルド部隊が国境地帯から撤収することで合意したわけですけども、現在の状況ですね、実際、撤収は始まっているんですか？」

玉本記者「はい、現地の状況ですが、国境の町、カミシュリの地元記者が確認したところによると、クルド部隊はまだ撤収していないということです。カミシュリのクルド人女性に電話で話を聞いたんですけども、『到底納得できない。武力でクルド人を追い出し、代わりにアラブ人を住ませるのは、力づくで地元コミュニティを引き裂くものだ。』と怒りを込めて話していました。で、いずれにせよ、今後、北部の国境地帯では、トルコ軍とその支援を受けた反体制諸派の影響力が強くなるのは、間違いないと思われます。」

金平「えー玉本さん。金平ですが、えーシリア北部のクルド人自治区というのはですね、去年私も取材にあって、非常に思い入れがある土地なんですけども、現下の状況の中では、日本人のジャーナリストが、現地で直接取材

するというのは、とても貴重なことだと思うんです。で、そのうえで、現地の人からの話ですね、一番心に残っていることは何でしょうか？」

玉本記者「そうですね、あのクルド人は国を持たず、大国に利用され、裏切られてきました。で、今回ですね、再びこの歴史が繰り返されてきたように感じます。で、なぜ私たちクルド人は、いつも見捨てられるの？と話す住民の声は、非常に重く響きました。で、今後シリアが安定に向かう保証はなくですね、住民の間では、不安が広がっています。」

玉本記者「シリアは日本からは遠い国の事かもしれませんが、どうか現地の人々のことに心を寄せてほしいと心から願います。」

膳場「玉本さんありがとうございました。以上特集でした。」

このトピックに当てられた時間は 1850 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

アメリカが国際社会や紛争への関与から手を引くような動きに対しては今回のような論調で報じられるがこのことは、アメリカが紛争に関与する際の報じ方を検証する際に一つの参考になるように考えられる。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・オープニング

菅原大臣の問題は大臣に就任してからの問題行動ではなく、それ以前のことと大臣就任を機に報じられたということであるが、そうした政治家の問題について大臣就任まで目益しし続けてきたメディアの姿勢にも問題があるのではないだろうか。